

# 創業140周年、そして未来へ

- 1 CSR の取組み
- 2 職員は人材ではなく「人財」
- 3 えひめ国体で3つの優勝!!
- 4 伊予銀行創業 140 周年記念事業

## 1 CSR の取り組み

### いよぎん CSR の定義

一般的に「CSR とは、企業の社会的責任を果たし、法令遵守、倫理的行動、環境配慮等を意識した取り組みにより、お客さま、株主の皆さま、従業員、社会等ステークホルダー（利害関係者）の満足度を高めること」と定義される。

当行は、地域社会の発展を基盤とする地方銀行であり、「潤いと活力ある地域の明日を創る」を存在意義としている。当行の企業理念は、CSR と目的・考え方の方向性を一にする。

そこで、いよぎん CSR は、お客さま、株主の皆さま、従業員、社会等のステークホルダーの満足度を高めるため、「法令遵守」「顧客保護」「環境問題への対応」「社会・顧客ニーズへの積極的対応」「それらに基づく独自商品・サービスの提供」など、潤いと活力ある地域の実現に向けた、本業をはじめとした社会貢献活動全般への取り組みと定義している。

### 1) 福祉・文化

#### 公益財団法人伊予銀行社会福祉基金

伊予銀行社会福祉基金は、社会福祉の充実及び次代を担う人材の育成のために必要な支援を行い、地域社会の発展と福祉の向上のために必要な助成を行うことを目的とする。昭和 51 年（1976）に財団法人伊予銀行社会福祉基金として創設し、平成 24 年（2012）に公益財団法人伊予銀行社会福祉基金に改組した。

主な活動内容は、「奨学金給付」「就職奨励金」「福祉機器贈呈」「図書贈呈」である。「奨学金給付」は、愛媛県内の一人親または両親のいない家庭の高校生を対象として、奨学金を給付するもので、返還の必要はない。「就職奨励金」は、愛媛県内の児童福祉施設入所児童及び里親委託児童が就職する際に、奨励金を贈呈するものである。「福祉機器贈呈」は、愛媛県内の社会福祉施設、心身障がい者共同作業所、精神障がい者小規模作業所に福祉機器を贈呈するものである。「図書贈呈」は、愛媛県内の高等学校等に図書を贈呈するものである。

これまでに「奨学金給付」は、848 人に総額 4 億 1,200 万円。「就職奨励金」は、1,533 人に総額 2,400 万円。「福祉機器贈呈」は、358 施設に総額 1 億 8,400 万円。「図書贈呈」は、16 校に毎年 67 万円。

（平成 30 年 10 月現在）

#### 伊予銀行地域文化活動助成制度

伊予銀行地域文化活動助成制度は、愛媛県内で伝統性のある「草の根」的な文化活動を行っている団体・グループに対して、その活動資金の一部を助成する制度である。

当行の企業理念に掲げる「潤い」を文化、「活力」を経済と捉えて、文化と経済の両面から地域づくりに資するため、平成 4 年（1992）1 月にスタートした。

これまでに「日土本村五ツ鹿保存会」「興居島船踊保存会」「新居浜市勇太鼓保存会」など、1,149 団体に総額 2 億 1,824 万円を助成している。（平成 30 年 10 月現在）

#### 「ミュージアム 88 カードラリー in 四国」

「ミュージアム 88 カードラリー in 四国」は、四国霊場 88 カ所巡礼になぞらえて、四国 4 県の美術館・博物館などを巡るカードラリーで、施設に用意した 2 種類のカードを集めて「四国アライアンス賞」と「マスター賞」に応募することで、豪華な賞品がもらえる。有効期間はなく、ゆっくりじっくりと巡ることができる。

四国の第一地銀（伊予・阿波・百十四・四国）が共同で、文化施設の情報発信や観光振興のために取り組むプロジェクトで、会員数は約 4 万 813 人。（平成 30 年 10 月現在）

#### 伊予銀行合唱団

伊予銀行合唱団は、昭和 42 年（1967）に歌が好きな行員が集まって結成された。

創部 4 年目の 45 年（1970）に全日本合唱コンクール埼玉大会に出場、これが初めての全国大会出場である。以後、全日本合唱コンクールの常連として、「筑後川」「星の降る丘」「永久（トコシナ）ニ」「鳥の歌」「良寛相聞」「いのちの木を植える」などを歌い、平成元年、3 年、5 年、7 年、9 年、11 年、13 年、16 年、19 年、22 年、24 年に銅賞、20 年には銀賞を受賞した。

また、定期演奏会「ふれあいコンサート」の開催、国民文化祭や県民総合文化祭への参加、施設訪問などの活動を展開している。

例年「ふれあいコンサート」は、県内各地で開催しているが、平成 12 年（2000）は「しまなみ ふれあいコンサート」と銘打って広島県尾道市瀬戸田町のベル・カントホールを会場とした。岡田夏夫元団長の呼びかけによって、歌の島混声合唱団とのジョイント・コンサートが実現し、平均残響時間 2 秒を誇るベル・カントホールに生口島の人たちと当行行員の美しい歌声が響いた。

#### 伊予銀行地域文化活動助成制度



第 50 回助成先「日土本村五ツ鹿保存会」



第 51 回助成先「興居島船踊保存会」



第 52 回助成先「新居浜市勇太鼓保存会」



第 53 回助成先「枝越獅子舞保存会」



「ミュージアム 88- カードラリー in 四国」



ふれあいコンサート (平成 30 年 3 月 18 日)

団員が所属する部店や勤務地が様々であり、月 2 回の練習日に全員が揃うことは容易ではないが、一度集まれば“歌うことが好きで、飲むことはもっと好きな”団員たちは、驚異的な集中力と団結力を発揮する。歴代指揮者は、音楽を専門とする松本三郎、森田功、泥谷強史、田辺隆、佐々木正嘉、杉野喜伊一、井上洋一の各氏。平成 29 年度(2017)は、指揮者の井上洋一愛媛大学教育学部教授、ボイストレーナーの塩野泰子氏、ピアノ演奏の井ノ上典子氏の指導のもとで練習に励んだ。

平成 30 年 (2018) 3 月 18 日、松山市民会館において開催された伊予銀行創業 140 周年・合唱団創部 50 周年記念「ふれあいコンサート」では、810 人の聴衆を美しいハーモニーで魅了した。

「どうしても、みんなと一緒に『永久ニ』を歌いたかった！」

当時、香港支店の野中佑希支店長代理は、松山～香港間 2,222km の距離を超えて、「ふれあいコンサート」のステージに立った。熱意あふれる彼女は、練習 2 回と本番 1 回の計 3 回、香港から飛行機で帰国したのである。彼女がぜひとも歌いたかった「永久ニ」は、作曲家の鈴木憲夫氏が記紀の古語を使って作詞した混成合唱組曲で、魂を振起させるような不思議な感銘を与える。

古 (イニシエ) 天地 (アメツチ) ニ 人 (ヒト) 神聖 (カミ) ト  
 俱 (トモ) ニ 有 (マ) ス 世 (ヨ)  
 木 (ク) 木 木 木ニ 木ノ精霊 (ククノチ) オワシマシ  
 (作詞・作曲 鈴木憲夫「永久ニ」)

記念コンサートを終えた藤田貴夫団長は、「合唱団は、皆さまに支えられて創部 50 周年を迎えることができた。これからも新しい活動にどんどん挑戦していくので、引き続き応援をよろしくお願ひしたい」と抱負を語った。



合唱団メンバーの八木さん(左)と松原さん(右)

### 点字カレンダーの贈呈

視覚障がいの方のために、年末に点字カレンダーを作成し、財団法人愛媛県視覚障害者協会に贈呈している。この事業は、平成 4 年(1992)度から継続して実施しており、平成 24 年版点字カレンダーは、第 31 回愛媛広告賞「その他部門」において最優秀賞を受賞している。

### 「坊っちゃん劇場」の応援

「坊っちゃん劇場」は、東温市に位置して、自主制作ミュージカルを 1 年間上演する地域文化の発信拠点である。

当行は、作品協賛や貸切公演、新入行員研修のほか、行員による「坊っちゃん劇場後援会」個人会員の加入や、共同企画イベント「ミュージカルに学ぼう！」の開催等を通じて、坊っちゃん劇場の応援に努めている。

### 「小さな親切」運動愛媛県本部

「小さな親切」運動は、一人ひとりが小さな親切を大きな勇気を持って行うことで、お互いが思いやり、支え合う社会を築こうとする運動である。昭和 38 年 (1963) に社団法人「小さな親切」運動本部が設立され、57 年には愛媛県本部が結成されて、初代代表に渡部七郎頭取が就任した。以後、当行が実務を担い、県代表は、榊田三郎頭取、水木儀三頭取、麻生俊介頭取、森田浩治頭取と、当行の歴代頭取経験者がその職に就いている。

愛媛県本部は、事務局を当行の広報 CSR 室に置き、「実行章」の贈呈、「尾山賞」の贈呈、愛媛「コスモスの花」コンクール、作文コンクール、使用済み切手の寄贈、車椅子の贈呈などの実践活動を展開している。

## 2) 環境

### 伊予銀行エバーグリーンの森

当行では、愛媛県の「企業の森」制度に則して、平成 20 年 (2008) に愛媛県、大洲市、(財)愛媛の森林(もり)基金と締結した「森林(もり)づくり活動協定」に基づいて、森づくりを進めている。名称は、「伊予銀行エバーグリーンの森」とした。

この取組みは、行員とその家族が森林に入り、ボランティア活動を行うことにより、CO<sub>2</sub> の抑制に大きな働きをしている森を元気にしていこうとするもので、大洲市と東温市の 2 カ所で開始した。

平成 25 年 (2013) からは、新たに松山市と西条市の 2 カ所を加えて、県内 4 カ所で森林を育てる活動を展開している。

### 公益信託伊予銀行環境基金「エバーグリーン」

平成 20 年 (2008) 3 月、当行の創業 130 年を記念して、公益信託



共同企画イベント「ミュージカルに学ぼう」



「小さな親切」運動愛媛県本部総会



「伊予銀行エバーグリーンの森」

## エバーグリーン基金の助成



平成 28 年度助成先「特定非営利活動法人愛媛生態系保全管理」



平成 29 年度助成先「かわろそ復活プロジェクト」



「森のあるまちづくり」植樹祭

伊予銀行環境基金「エバーグリーン」を創設した。名称は、当行のシンボルカラーであるエバーグリーンにちなむ。

この基金は、当行の発展を支えていただいた地域社会に貢献するため、愛媛県の美しい自然景観を次代に引き継ぎ、豊かで快適な地域環境を創造する活動を支援することを目的としている。

基金の助成対象者は、愛媛県内に主たる活動拠点がある公益法人、特定非営利活動法人、学校、任意団体若しくは個人である。助成対象事業は、愛媛県内の自然環境及び生物多様性を保全し、豊かな地域社会環境（自然環境及び生物多様性の保全・回復のみならず、再生可能エネルギーの活用による地域活性化及び地域自然社会環境の改善による住民の暮らし向上やまちづくり等も含む）の創造発展のための幅広い実践活動・調査活動で、助成金額は、原則として1件50万円以内。

これまでに139件、約5,080万円を助成している。（平成30年10月現在）

## 「森のあるまちづくり」をすすめる会

愛媛県、松山市、地元企業の皆さまの賛同を得て、平成22年（2010）8月に「『森のあるまちづくり』をすすめる会」を発足させ、以後、当行が事務局を担当している。

地域における緑化の推進は、大規模な植樹もさることながら、身近な環境で少しずつからでも緑を増やすことが重要である。街なかの小さなスペースでも、土地由来の樹種を植樹することで「本来の自然の森」を形成することが可能である。その具体策として、宮脇昭横浜国立大学名誉教授が提唱される「宮脇方式」と呼ばれる植栽を採り入れることとした。

現在の加盟団体は68団体で、累計4万8,000本の樹木を植栽している。（平成30年10月現在）

## 3) 地域活性化

## 各種ボランティア活動

「松山市パークサポーター」として、城山公園の清掃活動を実施している。「松山市パークサポーター制度」は、城山公園堀之内地区の清掃・除草等の活動を行う団体を募集する制度で、当行は認定第1号である。

また、愛媛県の「障害者の愛顔あふれる推進事業」等に協力して、障がい福祉施設のイベントでボランティア活動を展開している。

## 「サイクリング・パラダイス」

平成26年（2014）10月、当行は、愛媛と広島を結ぶ「しまなみ海道」

をサイクリングする映像やポスターを制作し、YouTubeや全営業店でサイクリングの魅力を発信することとした。

この取組みは、愛媛県が推進する「サイクリング・パラダイス」の民間応援組織「サイクリング・パラダイスえひめ推進会議」の加盟企業として実施するもので、しまなみ海道を空撮した映像やポスターをYouTubeや全営業店で展開して、サイクリングの魅力を愛媛県内外に発信し、地域経済の活性化のサポートに努めている。

「しまなみ海道」に続いて当行では、愛媛県、県内各市町、伊予鉄道株式会社と協力して、サイクリング映像「松野町・四万十川」「佐田岬半島」「瀬戸内・松山」「東予」「南伊予」「西伊予」の各篇を制作・公開している。

## 愛媛大学で寄附講座を設置

平成28年（2016）4月1日、当行は、国立大学法人愛媛大学社会共創学部（仮称）に寄附講座を設置した。

この講座は、新たな価値の創生を通じて地域活性化のあり方について教育・研究することを目的に、愛媛大学が当行からの寄附金により設置するものである。寄附額は総額1億2,500万円（年間2,500万円×5年）で、担当教員として山崎正人（元いよぎん地域経済研究センター代表取締役社長）が、ビジネスプランニングやビジネスファイナンスを講義して、地域活性化に貢献する人財育成をサポートしている。

## 4) スポーツ・教育

## 伊予銀行女子ソフトボール部

昭和60年（1985）4月1日、四国でいよつそごう（現いよつ高島屋）に続く二つ目の実業団チームとして、当時の榊田頭取のもとで伊予銀行女子ソフトボール部が誕生した。創部の理念は、別掲のとおりである。

メンバーは、マネジャーを含めて14人中12人が新入行員というフレッシュな顔ぶれ。その頃は、西日本に日本リーグ組織がなかったので、国体を中心としたトーナメント大会を主な活躍の場とした。

創部から3年計画で全国に通用する戦力を目指したが、当時は「県大会を制すれば、四国を制し、全国大会出場」という図式であったので、まずは県予選において「いよつそごうに如何に勝つか」をテーマにチームづくりを進めた。

創部4年目となる昭和63年（1988）、西日本リーグ発足に伴い日本リーグ3部に加盟し、平成5年（1993）に3部リーグ優勝によって、2部リーグに昇格した。平成9年に3部リーグに降格するものの、平成12年の入れ替え戦を勝ち抜いて2部リーグに再昇格を果たした。



「サイクリングしまなみ」



愛媛大学社会共創学部（仮称）に寄附講座を設置（平成28年4月）

## 伊予銀行女子ソフトボール部の創部の理念

- ①企業市民として、体育活動を通じ地域に貢献する
- ②部活動を推奨することにより、従業員の体力・健康の増進気運を醸成する

平成13年(2001)の2部リーグに臨む選手たちはたくましくなっていた。厳しい入れ替え戦を戦った経験から、投手は「球速100キロ以上」、野手は「全員がホームランを打てるパワーを身に付ける」という高い目標を掲げて猛練習を重ねた。

島根三洋戦では、3連続ホームランを含む1試合4本のリーグ新記録で大勝するなど、後半戦6連勝を飾り、2部リーグ復帰1年目にして優勝し、悲願の1部リーグ昇格を果たした。

平成14年(2002)、当行女子ソフトボール部は、遂にオリンピック選手が活躍する1部リーグに駒を進めた。2戦目となる大鵬薬品戦では、7回裏2アウトランナー無しまでリードを保ち、初勝利を手にするかと思われたが、痛恨の逆転負け。善戦しつつも、開幕6連敗を喫して、1部リーグでの勝利の道程は険しかった。

7戦目は、宇津木妙子監督率いる強豪の日立高崎であった。全日本投手2人を擁した日立高崎は、これまで6戦全勝。一方、当行は6戦全敗。前評判では苦戦必至とされたが、足を使った積極果敢な攻撃で2点を先制して、先発投手が相手打線を3安打完封という絵に描いたような試合運びで、初勝利を収めた。

1部リーグにおける過去の成績は、14年が12位、15年が11位、16年が12位、17年が12位、21年が12位、22年が11位、26年が10位、27年が10位、28年が11位、29年が10位で、今後の上位進出が期待される。

一方、国体では、愛媛県代表として20回本戦に出場し、8位以内の入賞が12回という安定した成績を収めている。このうち平成4年(1992)の山形国体、18年の兵庫国体、25年の東京国体で準優勝、22年の千葉国体では優勝(ただし、2回戦が雨天中止となり8チーム同時優勝)という輝かしい成果を上げた。記憶に新しいのは、29年の地元えひめ国体における優勝である。

リーグ前のオープン戦として、平成15年(2003)まで「チャレンジカップ」が滋賀県長浜町で開催されてきた。しかし、改修工事のため長浜ドームが使用できなくなり、関係者は新たな開催場所を求めた。「3月という時期であり、温暖な場所が良い」との声が高まり、参加チームで最も南に位置する当行に白羽の矢が立った。「伊予銀行の地元松山で開催できないか」という関係者からの要望を検討した結果、日本リーグのチームが松山で試合をすることは、地域のソフトボールファンやジュニアにハイレベルなプレイを観てもらえる機会を提供することで、地域貢献に繋がると判断した。これにより、松山市のマドンナ球場を主会場とする「マドンナカップ」が誕生した。

「マドンナカップ」は、平成16年(2004)から開催されて、豊田自動織機、Honda、シオノギ製薬、太陽誘電などの強豪チームが参加している。

#### 伊予銀行テニス部

平成元年(1989)4月1日、四国で初めての実業団チームとして、当時の梶田頭取のもとで伊予銀行テニス部が誕生した。創部の理念は、別掲のとおりである。

創部メンバーは、同年入行した全日本学生や中四国学生ランキングの上位選手3人と既に入行していたテニス経験者3人の計6人で、男子テニス部としてスタートした。

テニス部は、創部1年目にして全国実業団対抗テニス大会を勝ち上がり、日本リーグに昇格した。しかし結果は、16チーム中14位で、日本リーグから降格となった。

その後の2年間は、全国実業団対抗テニス大会4位が続き、日本リーグ再昇格を果たせなかったが、創部4年目に日本リーグに見事返り咲いた。その後、平成29年(2017)まで26年連続出場を続けているが、これはテニス日本リーグ最多連続出場である。通算出場回数は27回を数え、リコーの29回、協和発酵キリンの28回に次ぐ3位となっている。

日本リーグの多くのチームが在京・在阪で活動し、選手のプロ化が著しいなか、地方を拠点とし、梶田元頭取の意向に沿って、永年にわたりアマチュアイズムにこだわり続けた。

しかし、平成29年(2017)のえひめ国体に向け、関係者からの要請を踏まえた強化策として、平成26年から女子選手をメンバーに加えるとともに、平成28年には日本ランキング最高順位4位の片山翔プロと、同じく最高順位3位の波形純理プロを招聘するなど、選手層の充実強化を図った。

その結果、平成28年(2016)のいわて国体では成年女子(波形純理・長谷川茉美)が、愛媛県勢として初優勝するに至った。翌29年のえひめ国体では、成年男子と成年女子がそろって優勝という快挙を成し遂げた。

こうした輝かしい戦歴の陰には、一つの出会いがあった。創部2年目、3年目と日本リーグに昇格できない苦しい時期、名伯楽として知られる小浦武志氏(元ナショナルチーム監督・GM)との邂逅である。愛媛県テニス協会が、当時、伊達公子選手のコーチであった小浦氏を招いて、松山で強化練習会が開催された。参加した選手たちは、これまでに経験したことのない中身の濃い小浦氏の指導を受けて、個々の

#### 伊予銀行テニス部の創部の理念

- ①スポーツの振興とスポーツを通じてのふれあいにより、当行のイメージアップを図る
- ②部活動を活発化することによって、組織の活性化と連帯意識の高揚を図るとともに、行員の健康・体力の保持・増進気運を醸成する
- ③部活動の活発化によってもたらされるサークル活動の活発化は、自由時間の善用につながるると同時に、うるおいのある生活環境を提供してくれる

プレーの問題点や精神的弱点を容赦なく指摘された。

「この人なら今の行き詰まりを打開してくれる！」選手たちはそう直感して、「どうすれば強くなれるか」小浦氏にアドバイスを求めた。その日からテニス部の空気が変わった。従来の“やや諦め”ムードが一扫され、“やる気”モードに切り替わった。

部員たちが、勢いに任せて小浦氏に当行テニス部のコーチをお願いしたところ、無謀とも思えるその願いは、数カ月後に叶えられた。伊達公子選手のコーチなどで多忙を極めるなか、岡山合宿で指導していただくこととなった。以来、テニス部は、小浦氏の指導を仰いでいる。

#### ふるさと応援私募債「学び舎」

ふるさと応援私募債「学び舎」は、一定の財務基準を満たした優良企業が、その信用力を背景に発行するもので、当行が発行企業から受け取る手数料の一部を利用し、発行企業が指定する地域の学校に図書や備品、スポーツ用品などを連名で寄贈している。

#### いよぎん金融教育教室

当行は、小学生から社会人まで幅広い年代の皆さまを対象とした「いよぎん金融教育教室」を開催している。

具体的なメニューは、次のとおりである。小学生を対象に、銀行の仕組みや健全な金融感覚などを学んでいただく「キッズセミナー」。小学1～4年生を対象に、1日支店長として仕事を体験する「1日子ども支店長」。学校や各種団体からの要望に基づいて実施する「職場体験学習・銀行見学・まちたんけん・出前授業・講師派遣」など。

#### 「エコノミクス甲子園」愛媛大会

「全国高校生金融経済クイズ選手権エコノミクス甲子園」は、楽しみながら金融経済を基礎から学んでもらうことを目的に、NPO法人金融知力普及協会が全国の高校生を対象に企画するクイズ大会である。

当行は、愛媛県内の高校生に金融経済の重要性を広く伝えるため、第3回大会から愛媛大会を主催している。

#### 「愛媛FC」の応援

「愛媛FC」は、松山市を中心に愛媛県全域をホームタウンとし、J2に所属するプロサッカーチームである。

当行は、地域振興の観点から、大塚頭取が「愛媛FC」J1昇格サポート協議会の会長を務めるほか、試合用ユニフォームスポンサー、行員による「愛媛FCファンクラブ」への加入や行員・家族による愛媛FC応援「伊予銀行サンクスデー」の実施など、様々な応援に努めている。

#### 女子硬式野球「マドンナ松山」の応援

「マドンナ松山」は、平成18年（2006）に四国で初めて結成された



「いよぎん金融教育教室」



「エコノミクス甲子園」愛媛大会（平成29年12月10日）



「愛媛FC」の応援

女子硬式野球チームである。

当行は、大塚頭取が愛媛県知事や松山市長らとともに顧問に就任し、広告協賛や行員・家族による「『マドンナ松山』サポーターズクラブ」への入会など、応援に努めている。

毎年8月には、松山市のマドンナスタジアム・坊っちゃんスタジアムを会場として「伊予銀行杯 全日本女子硬式野球選手権大会」が開催されている。

#### 地域スポーツを幅広く支援

愛媛県を本拠地として、B2に所属するバスケットボールチームの「愛媛オレンジバイキングス」。松山市を本拠地として、四国アイランドリーグに所属する野球チームの「愛媛マンダリンパイレーツ」。今治市をホームタウンとして、JFLに所属するサッカークラブの「FC今治」。

当行は、地域振興の観点から、広告スポンサーや行員・家族によるホームゲームの応援など、こうした地域スポーツを幅広く支援している。



「マドンナ松山」の応援



「オレンジバイキングス」のサポート活動

## 2 職員は人材ではなく「人財」

### 第60回旧友会総会

平成26年（2014）5月25日、第60回旧友会総会がアイテム愛媛で開催された。

旧友会は、1,600人を超える当行の退職者で構成されており、88歳（米寿）でゴールド会員、82歳でシルバー会員、77歳（喜寿）でレッド会員、70歳（古希）でグリーン会員となる。

当日の出席者は約630人で、総会は、鷲峯知典専務理事の司会ではじまり、物故者に黙祷を捧げた後、大塚頭取（旧友会会長）の挨拶、長寿祝い、井谷充宏副会長の会務報告と続き、森田名誉会長による乾杯の音頭で和やかな懇親会に移った。

翌26日、松山ゴルフ倶楽部川内コースにおいて、「旧友会ゴルフ大会」が開催された。

### 伊予銀行従業員組合結成70周年

平成28年（2016）3月29日、伊予銀行従業員組合が結成70周年を迎えた。



第60回旧友会総会（平成26年5月25日）



「あしなみ」組合結成70周年記念号（平成28年5月発行）

伊予銀行従業員組合は、昭和21年（1946）3月29日の結成以来、幾多の困難や試練を乗り越えてこの日を迎えるに至った。70周年記念地区行事は、次のとおりである。

本店地区は「シカゴフードドライブ」、松山東地区は「西条ビール園ツアー」、松山西地区は「ソフトバレーボール大会」、松山南地区は「バブルサッカー&ソフトバレーボール大会」、今治地区は「ソフトバレーボール大会」、新居浜地区は「しまなみウォークバスツアー」、八幡浜地区は「いちご狩り&懇親会」、宇和島地区は「ソフトバレーボール大会&懇親会」、九州地区は「ソフトバレーボール大会&懇親会」、県外地区は「ボウリング大会&懇親会」、広島地区は「銀河クルージング」、近畿東海（大阪）地区は「神戸ランチクルージング」、近畿東海（東京）地区は「箱根バスツアー」。

同年5月12日、組合結成70周年記念「あしなみ」増刊号が刊行された。同誌には、菊野齊也執行委員長の「組合結成70周年によせて」のほか、大塚頭取と森岡研二常務執行役員（平成6・7年度執行委員長）が祝辞を寄せるとともに、梶田三郎元頭取（元書記長）が執行部時代を回顧した対談などが掲載された。

### 行内誌「ふれあい」720号の刊行

平成31年（2019）1月、行内誌「ふれあい」720号が刊行された。昭和33年（1958）4月の「行報」（旧誌名）創刊以来、60年以上の長きにわたって、行内の行事・イベント、提案ニュース、ひとこと伝言板、旧友告知板、人事消息等のホットな話題を、全役職員、関連会社社員、旧友会会員にタイムリーに届けてきた貴重な紙媒体で、毎月の刊行部数は約7,000部に及び、行内コミュニケーションの円滑化を図っている。

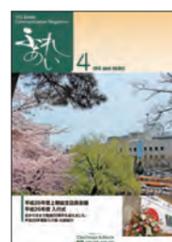
この度、従来の「縦書き右綴じ」の体裁を、「横書き左綴じ」に全面改訂した。近年、アルファベット表記が多くなり、縦書きでは読みにくくなったことなどからリニューアルしたものである。大幅な改訂は、それまでの「B5判モノクロ印刷」を「A4判カラー印刷」に変えた平成26年（2014）4月号以来である。



行内誌「ふれあい」720号（平成31年1月発行）



「行報」創刊号（昭和33年4月発行）



行内誌「ふれあい」平成26年4月号

## 3 えひめ国体で3つの優勝！！

### 愛顔つなぐえひめ国体の開会

平成29年（2017）9月30日、秋晴れの愛媛県総合運動公園において、「愛顔つなぐえひめ国体」の開会式が行われた。

オープニングプログラムでは、新居浜の太鼓台、西条のだんじり、宇和島の牛鬼を中心とする県民パフォーマンスや、えがおダンス、映像プログラムなど、多彩な催しが観客の目を楽しませた。

天皇皇后両陛下のご臨席のもと、各都道府県選手団が力強く入場。愛媛県代表の中矢力選手（柔道）と伊藤愛里選手（陸上）による選手宣誓が行われて、愛媛を舞台にして熱い戦いが始まった。

当行及び関連会社からは、9競技（成年男子テニス、成年女子テニス、成年女子ソフトボール、成年男子ホッケー、成年女子ホッケー、成年男子ハンドボール、成年女子バレーボール、成年男子相撲、成年女子サッカー）に監督・選手24人が出場した。



「愛顔つなぐえひめ国体」開会式（平成29年9月30日）

### 成年女子ソフトボール

伊予銀行女子ソフトボール部の酒井秀和総監督が国体の監督を務め、秋元理紗監督はベンチの記録員として黒子に徹した。トヨタ自動車から長崎望未・山下りらの2人のふるさと選手が加わり、チームの攻撃力が一段と強化された。大会に臨んで酒井監督は、「今できる最高のパフォーマンスを披露していこう！」とチームを引き締めた。

10月2日、西予市の球場における準々決勝の岡山県戦では、先発の庄司奈々投手が度胸満点のピッチングで相手打線を翻弄。打線は樋口菜美選手と加藤文恵選手の2本のホームランなどで効果的に得点し、6-0で快勝した。

10月3日、準決勝の兵庫県（シオノギ製薬）戦では、先制しながらも5回に追いつかれる厳しい展開。終盤、相手にゲームの流れを渡さないために、先発の庄司投手からサウスポー内海花菜投手への継投策がずばりと決まって、6-4で逃げ切った。

決勝戦の相手は、前回大会覇者の強豪愛知県。4回に長崎選手のホームランで先制するが、直後に追いつかれる白熱したゲームとなる。山場は6回に訪れた。1死1塁で、打席には樋口選手。ここで酒井監督は、「思い切って振れ！」と強攻策を指示。「頑張れ！」「ファイト！」スタンドの声援が高まるなか、快音を残した打球は右中間を破って、1点勝ち越し。二宮はな選手が二塁打で続き、この回一気に3点を挙げた。最終回は、内海投手渾身の投球で三者凡退に抑えて、ゲームセット。悲願の「えひめ国体優勝」を達成した。

スタンドから選手たちに惜しみない拍手が贈られ、球場は大歓声に包まれた。今回のえひめ国体を目指して、酒井監督は8年前から準備を始めた。地元選手の採用と育成。選手たちのフィジカル・スキル・メンタルの向上。環境整備。その結果、選手たちは自然体で試合に臨むことができ、さらに当行役職員、ソフトボール関係者、地元西予市の皆さま方の熱い応援が後押しした。

女子ソフトボール部の「生みの親」としてチームの活躍を見守った森田相談役が「ようやった。おめでとう」と愛顔で労うと、感激した選手たちが駆け寄って胴上げが行われた。

開催地となった西予市は、奇しくも末光元頭取、柘田元頭取、大塚頭取と当行3人の頭取の出身地であり、酒井監督のルーツでもある。成年女子ソフトボールの優勝は、「天の時、地の利、人の和」がもたらしたと言えるのかもしれない。



成年女子ソフトボールで悲願の優勝

## 成年男子テニス

10月1日、成年男子テニス1回戦（愛媛県-栃木県戦）の会場となる松山中央公園コートには、当行の片山翔選手と佐野紘一選手が登場した。

まずは片山選手が力強いストロークを武器に、5ゲーム連取するなど相手を圧倒して、8-1で快勝。続く佐野選手は、盛り上がる応援団の前で「下手なプレーは見せられない」と気を引き締めて、第1ゲームを奪取。その後もサービスが冴え、得意のバックハンドからの攻撃も決まって、8-1で快勝。愛媛県2（単2-0）栃木県0と順当に勝ち上がった。

10月2日、2回戦（愛媛県-埼玉県）を前にして、秀島達哉監督が「今日の試合が山になる。今までやってきたテニスをしっかりやろう。普段段どりのテニスができれば結果はついてくる」とゲキを飛ばした。

埼玉県の選手は、今年も学生日本一に輝いた早稲田大学の主力選手である。また片山、佐野両選手の後輩でもある。片山選手は先輩として、またプロとしての意地をみせ、持ち前のスピードで相手を圧倒した。しかし、佐野選手は学生トップクラスのパワーをしのぎきれず黒星を喫する展開となり、勝負の行方は最後のダブルスにかかることとなった。序盤に勢いのある学生にリードを許す苦しい展開となった。しかし、勝負どころで片山選手も佐野選手も積極的なネットプレーで埼玉県を振り切った。愛媛県2（単1-1／複1-0）埼玉県1と苦しみながらも、ベスト8入りである。

難敵の埼玉県を下した片山選手と佐野選手は、10月3日の準々決勝を愛媛県2（単2-0）福岡県0で勝ち進み、準決勝を愛媛県2（単



成年男子テニス

1-1 / 複 1-0) 京都府 1 で、遂に決勝戦に駒を進めた。

10月4日、松山中央公園コートの観客席には、麻生元頭取、森田相談役、大塚頭取と歴代3人の頭取が応援に駆け付けた。当行応援団の意気が上がるなか、選手たちにも心なしか緊張の色が認められた。秀島監督は「普段どおり行こう。自分の持てる力を出して、いつものテニスをやろう」と言葉をかけた。

決勝の相手福井県は、プロ選手を揃えた強敵である。まず片山選手が強烈なストロークで、菊池選手とのプロ対決を制した。続く佐野選手の相手は、これまで勝ったことがないロング選手である。佐野選手は、前後左右の多彩なショットを駆使して、相手の速いストロークを封じた。5ゲーム目には3連続失点で流れを奪われかけたが、ラリーでしのいで逃げ切った。マッチポイントで相手のショットがサイドラインを割った刹那、佐野選手は両手を頭上に差し上げた。片山選手の目には、光るものがあった。

悲願の国体優勝を目の当たりにして、観客席は歓喜に包まれた。そこかしこで当行役職員の握手する姿や、肩を抱き合う姿が見られた。

## 成年女子テニス

成年女子テニスは、当行の波形純理選手と Ravie Court 所属の華谷和生選手。男子の片山・佐野両選手が早稲田大学時代から一緒に汗を流した間柄で、“阿吽の呼吸”で試合に臨んだのに対し、女子は国体に向けて新たに結成されたペアである。

秀島監督は、試合前に波形選手と華谷選手の二人が共有する時間を多くして、意思疎通に欠けることがないように配慮した。

10月1日、成人女子テニス1回戦（愛媛県-沖縄県）では、国体2連覇がかかったプレッシャーからか、華谷選手がトリプルマッチポイントと窮地に立たされる。観客席からの声援でスイッチが入った華谷選手は、ここから反転攻勢に転じて4ゲーム連取の大逆転で先勝。波形選手は貫録のプレーで、快勝。1回戦を愛媛県2（単2-0）沖縄



成年女子テニス



成年テニス、男子は悲願の優勝、女子は国体2連覇を果たす

県0で突破した。

波形選手と華谷選手は、10月2日の2回戦を愛媛県2（単2-0）佐賀県0、翌3日の準々決勝を愛媛県2（単2-0）神奈川県0、準決勝を愛媛県2（単2-0）京都府0と勝ち進み、決勝に進出した。

10月4日、男子優勝で意気上がる応援席からは、早くも試合前に愛媛コールが響いた。決勝の相手は強豪の埼玉県である。

華谷選手はインカレ覇者との対戦となったが、強烈なストロークに苦しみながらも、攻めの意識を貫いて、相手を振り切った。波形選手は苦戦して、一時は2ゲームを追う展開となった。6-7と後がない状況で、応援団の大声援に後押しされるようにラリー戦をものにした。流れが変わって、9-7でゲームセット。息詰まる接戦を制して、執念が生んだ逆転勝利である。波形選手は、駆け寄った華谷選手と抱き合った。

観客席の興奮は最高潮に達した。松山中央公園コートに大歓声が響いた。麻生元頭取、森田相談役、大塚頭取をはじめ、当行役職員の愛顔が輝いた。

男女アベック優勝！ 成年女子2連覇！ まさに快挙である。コートの上に関係者が集まった。選手たちによる胴上げがはじまった。麻生元頭取が宙に舞い、森田相談役が宙に舞う。そして大塚頭取が青空に舞った。

麻生元頭取は、「この年になって、こんなにときめいたことはない」と上気の面持ちであった。後日、榊田元頭取に優勝を報告したところ、「おめでとう。よく頑張ってくれた」と関係者に対する労いの言葉があった。

## その他の競技

10月1日、しおさい公園伊予市民競技場で行われた成年女子ホッ



成年女子サッカー、準優勝

ケーには、当行から藤本知咲選手、園部祐子選手、門田桃子選手の3人が出場した。3人は、初戦の山梨県を相手に健闘した。

10月2～5日、丸山公園陸上競技場で行われた成年女子サッカーには、当行グループから大矢歩選手が出場した。愛媛県チームは、大矢選手を中心にして勝ち進んだが、決勝戦では同選手の負傷退場というアクシデントもあって、惜しくも準優勝となった。

10月3日、しおさい公園伊予市民競技場で行われた成年男子ホッケーには、当行から関谷幸正選手が出場した。準々決勝で今回優勝した栃木県を相手に善戦して、7位入賞した。

10月6・7日、ピバ・スポルティア SAIJO で行われた成年男子ハンドボールには、当行から長谷亮選手が出場した。準々決勝では今回優勝した埼玉県を相手に序盤でリードを奪う健闘で、5位入賞した。

10月6～8日、伊方スポーツセンターで行われた成年女子バレーボールには、当行から飯田あゆみ選手が出場した。5・7位決定戦ではVリーグ選手で編成された岡山県を相手に粘り強く戦い、7位入賞した。

10月7・8日、西予市乙井会館で行われた成年男子相撲には、当行から巨漢の吉本雄斗選手が出場した。団体戦では、先鋒の吉本選手の活躍により、学生チャンピオンが率いる三重県を倒して、3位入賞した。吉本選手は個人戦でも健闘して、ベスト16位に入った。



成年男子相撲、団体3位

## 4 伊予銀行創業140周年記念事業

平成30年(2018)3月15日に創業140周年を迎えた当行は、次のような記念事業を実施した。

### ①株式会社いよぎん Challenge & Smile の設立

平成30年(2018)4月2日、障がいのある方のための専門事業所「いよぎん Challenge & Smile 工房」の業務内容を広げ、より多くの障がいのある方に安心して働いていただけるよう100%出資子会社として「株式会社いよぎん Challenge & Smile」を設立した。

### ②『産業を語る ～愛媛13のオーラルヒストリー～』の発刊

平成30年(2018)6月1日、当行とIRCは、伊予銀行創業140周年とIRC創立30周年を記念して、『産業を語る ～愛媛

13のオーラルヒストリー～』を発刊した。

本書は、愛媛の産業の歴史を築いてきた企業の皆さまに、その産業の興りから戦後復興、高度経済成長期やバブル期を経て、どのように発展してきたのかを語っていただき、写真や年表などを含めて一冊にまとめたものである。

同月5日には、愛媛県教育委員会に寄贈して、県内の小・中・高等学校すべてでご利用いただくこととした。

### ③「いよぎんミライ創造塾」の開催

平成30年(2018)8月11・12日、サイボウズ松山オフィスにおいて「いよぎんミライ創造塾」を開催した。

このイベントは、高校生や専門学校生、大学生を対象に、愛媛の魅力を再発見して地域活性化について真剣に考えていただくことを目的としている。県内外から35人の学生が集まって、「愛媛でお金を使っただけプランを考えよう」をテーマにアイデアを出し合った結果、「古民家活用アイデア」や「酒蔵×タクシーで巡る企画」などが提案された。こうしたアイデアは、当行グループが実現に向けてサポートすることとしている。

### ④クラウドファンディングを活用した創業・地域活性化事業を開始

平成30年(2018)9月3日、当行はクラウドファンディングを活用した創業・地域活性化事業を開始した。

この事業は、株式会社マクケア及びREADYFOR株式会社が運営するクラウドファンディングサービスで、目標金額を達成された方を対象に、提携先に支払う成約手数料の一部を補助するものである。

クラウドファンディングは、資金調達を行えると同時に事業に関する商品・サービスのPRやテストマーケティングの効果も期待される。

### ⑤「伊予銀行社会福祉基金」奨学金制度の拡充

平成30年(2018)9月12日、公益財団法人伊予銀行社会福祉基金は、次代を担う青少年の育成を一層支援するため、奨学金制度を拡充した。

同基金では、昭和53年(1978)の設立以来「いよぎん福祉奨学金給付事業」として、ひとり親または両親のいない家庭の高校生に奨学金を無償で給付しており、平成30年(2018)8月末現在の給付実績は、848人に総額4億800万円を支給した。

伊予銀行創業140周年記念事業の一環として、事業名称を「いよぎん奨学金給付事業」に変更し、募集人数を40名、奨学金を



『産業を語る ～愛媛13のオーラルヒストリー～』



「いよぎんミライ創造塾」



株いよぎん Challenge &amp; Smile 設立 (平成30年4月2日)



「いよぎんジュニア未来塾」



「NHK 学園生涯学習フェスティバル松山市俳句大会」



シンポジウム「AI・IoTで変えるこれからの企業経営」

月額2万円に拡充した。

#### ⑥金融教育の拡充

平成31年(2019)1月10日から、県内全域の小学生から高校生向けに、金融リテラシー向上を目的とした新しい金融教育プログラム「いよぎんジュニア未来塾」を開始した。

#### ⑦NHK 学園生涯学習フェスティバル短歌・俳句大会の誘致と

Webサイト「HAIKU & WALK」の開設

当行は、創業140周年記念事業の一環で「NHK 学園生涯学習フェスティバル短歌・俳句大会」を誘致した。この大会は、短歌・俳句の一般愛好家向けに各地で開催している全国規模の大会で、「NHK 学園生涯学習フェスティバル 伊予銀行創業140周年記念事業 松山市短歌大会・松山市俳句大会」としての開催が実現した。開催日は平成31年(2019)2月23・24日、開催場所は松山市民会館。

2月19日には、「松山市短歌大会・松山市俳句大会」の開催に先駆けて、歌碑と句碑の紹介・翻訳Webサイト「HAIKU & WALK」を開設した。

#### ⑧記念シンポジウムの開催

平成31年(2019)3月4日、当行とIRCは、伊予銀行創業140周年記念とIRC創立30周年を記念して、シンポジウム「AI・IoTで変えるこれからの企業経営」をANAクラウンプラザホテル松山で開催した。

同時開催の企業展示では、企業がAIやIoTなどを導入して効果を上げるための商品・事例を10社がブース展示した。

#### ⑨『伊予銀行140年史』の発刊

創業から140年にわたる当行の歴史とともに、明治の初め、近代産業の黎明期から現在に至るまでの愛媛の経済や金融をとりまとめた『伊予銀行140年史』を編纂、発刊した。

#### ⑩創業140周年記念「スポーツフェスティバル」の開催

平成30年(2018)11月17日、当行役職員2,800人が愛媛県武道館に結集して、創業140周年記念「スポーツフェスティバル」を盛大に開催した。

スローガンは、「140(ワンフォーオール) All for one」。競技内容は、ブロック対抗を中心に運動会形式。ブロック分けは、本部・関連、松山A、松山B、松山C、今治、新居浜、八幡浜、宇和島、四国・中国、九州・近畿・東海の10ブロック。

開会式では、大塚頭取が、西日本豪雨被害に遭われた方々への



創業140周年記念ポスター

見舞いと復興支援や、金融機関を取り巻く厳しい情勢への対応について言及した後、「伊予銀グループ全員が力を合わせて頑張っていきましょう！」と高らかに開会を宣言した。

選手を代表してテニス部の佐野紘一キャプテンと女子ソフトボール部の対馬弥子主将が、「創業140周年記念『スポーツフェスティバル』のスローガンである『140(ワンフォーオール) All for one』の精神で、従業員一同、明るく楽しくプレーすることを誓います」と選手宣誓。

「ぐるぐるタイフーン」「大綱引き」「しっぽ取りゲーム」などの楽しい競技が続き、大詰めは「大下剋上! 騎馬戦」と「チーム対抗男女混合リレー」。鎧兜に身を固めた大塚頭取が登場すると、会場は興奮と熱気の渦に包まれて、しばし拍手が鳴りやまなかった。騎乗の大塚頭取は、特大のハンマーを振って荒武者どもをなぎ倒し、颯爽とした“武将”の戦いを役職員2,800人の眼前で披露した。フィナーレを飾る男女混合リレーでは、還暦を過ぎた渡部四郎選手が、世界マスターズ選手権(陸上)金メダリストの「韋駄天」振りをいかに発揮して、若手行員を圧倒した。



スポーツフェスティバル



スポーツフェスティバル



表彰式及び高田専務の閉会挨拶を終えて、参加者全員で「エバーグリーンの風」を合唱した。競技場の選手たちは自ずと肩を組み、大きな円環を形成して行内の結束の固さを示した。

「燃える太陽に向かい 明日の空へ 風がひとすじの 道をひらく  
いま 新たなチャレンジ いま 新たなチャレンジ 高なる  
思いで 未来を描く エバーグリーン 伊予銀行」

頭取から若手行員、キャリア行員まで、年齢、性別、役職を越えて伊予銀行の仲間が一つになった刹那である。

明治11年(1878)の創業以来、信を重ねて140年。伊予銀行は、これからも役職員が一丸となって、瀬戸内圏域を代表する金融機関として信を重ねてゆく。